

おおふな

2025年7月28日 No.2

発行者：森田隼士 編集：情宣部

JR東労組 大船支部

大船支部第29回定期大会開催！！②

大会宣言

JR東労組大船支部は7月26日、神奈川県労働文化センターにおいて第29回定期大会を開催し、スローガン、運動方針を含め全組合員で組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認した。

2025 JR総連春闘では「労働実態・生活実感を訴え25春闘要求を私たちからつくり出そう！」をスローガンに、春闘メッセージ行動と会社の早期回答によるJR総連春闘破壊を許さず、横浜地本主催の春闘集会にむけて問題意識を高めてきた。要求満額を勝ち取ることはできなかったものの、全組合員に当たりきることを目指し、全分会からのメッセージ行動貫徹と地本春闘集会では要請数以上の組合員の結集を勝ち取ることが出来た。特に大船運輸区分会や鎌倉車両センター分会での組合員参加に向けたこだわりと実践は、支部においても教訓化すべきと総括した。JR東労組は1万名組織を目指しているなかで、組織拡大を成しえた機関から組織拡大を「一丁目一番地」として、常に組織の中での共通認識とし全組合員で関係を積み上げてきたこと。さらにはこれまで踏み込めなかった己から脱却し、相手に迫ることを教訓として、大船支部における組織拡大に繋げていこう。同時に小林委員長に対する不当転勤に対して未加入者からも怒りや不安の声が上がっている。会社に対して不当転勤が失敗だったと思わせるように組織拡大を実現していこう。

「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」が提案された。職場ではこれまでにない大きな提案に疑問や不安の声が相次いでいる。私たちは、各職場で職場集会や個別対話、アンケートを通じて意見を集約し、本部一本社間の交渉を創りあげてきた。新しい制度では評価制の人事・賃金制度が導入されようとしている。過度な競争を職場に持ち込み、安全を脅かすものは反対である。「定期昇給を軸とした新たな格差と分断、不利益変更反対！安全・健康・生活を守るため、全組合員でたたかおう！」のスローガンの下、会社の狙いを明らかにして、騙されない・諦めない組合員づくりを職場で展開していこう。

JR東日本の信頼を揺るがす事故・事象が後を絶たない。新幹線の相次ぐトラブルは言うに及ばず、在来線においても車両トラブルやあわや社員の死亡事故といった事象が後を絶たない。JR西日本福知山線脱線事故を発生させた当時の大阪支社は、安全よりも「稼ぐ」ことを前面に押し出していた。JR東日本でも「勇翔2034」では「安全」より「稼ぐ」ことが前面に押し出されており、安全に関して不安の声が出されている。チェック機能を果たせるのはJR東労組でしかない。「命と安全」を最大の価値基軸として「安全・健康・ゆとり」のある職場をつくり出すために、組合員・未加入者と議論し、JR東労組への結集を呼びかけ、過半数代表者選の勝利を実現しよう。

「被害者が加害者とされた！JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」の裁判闘争がスタートしている。会社は、Aさんを不良社員として仕立て上げ、管理者の暴行はなかったことにして、事実の改ざん・隠蔽を図ってきている。このような経営姿勢を許してしまえば、私たちは安心して働くことはできない。健全なJR東日本会社をつくり出すために駅頭ビラ配り等で、真実を自らの言葉で大衆に語りかけ広範なたたかいをつくり出そう。

戦後80年、沖縄と日本がまた戦地になろうとしている。ひとたび戦争になれば、鉄道は戦争の被害者にも加害者にも加担者にもなり得る。「抵抗とヒューマニズム」の精神で、JR東労組に賛同する横浜地本推薦議員等懇談会と全ての仲間とともに、平和で安心して暮らせる社会を実現するために行動していこう！

以上、宣言する。

2025年 7月26日
東日本旅客鉄道労働組合横浜地方本部
大船支部第29回定期大会

全組合員の力で、
組織強化・拡大を実現しよう！